

International Conference Center Kyoto

2018
Autumn

国立京都国際会館

京都で、会いましょう。

巻頭インタビュー

公益財団法人 国立京都国際会館 館長 内田 俊一

人類共通の課題に挑む 国際会議場の館長として

特集 彩催 Recommended Conference by ICCK
第18回 国際薬理学・臨床薬理学会議
(WCP2018 KYOTO) 市民公開講座



人類共通の課題に挑む 国際会議場の館長として

2018年7月に国立京都国際会館の7代目館長に就任した内田俊一新館長に、国際会館への思いや今後の会館運営の抱負、新しく出来たニューホールについてお話を伺いました。

巻頭インタビュー

公益財団法人 国立京都国際会館 館長

内田 俊一
Shunichi UCHIDA

Profile

昭和23年	9月	鹿児島県生まれ
昭和47年	3月	東京大学卒業
昭和47年	4月	建設省入省
平成 2年	4月	京都市企画調整局活性化推進室長
平成 4年	4月	京都市企画調整局長
平成 5年	10月	京都市助役
平成 9年	7月	建設省大臣官房政策課長
平成15年	7月	内閣官房内閣広報官
平成18年	7月	内閣府事務次官
平成21年	9月	消費者庁長官(初代)
平成23年	7月	一般財団法人建設業振興基金理事長
平成30年	7月	公益財団法人国立京都国際会館館長 就任

国際会館とのご縁と 新館長としての抱負

1990年から1995年まで、私は当時の建設省から京都市役所に出向しました。平安建都1200年の記念事業の一環だったと思いますが、天皇后両陛下をお招きしての催事がこの京都国際会館で開かれました。二階席までぎっしりと大勢の参加者で埋め尽くされたメインホールの壮観な眺め、そして両陛下のご入場をお迎えした際に沸き起こったどよめきと拍手、音というよりそこから生まれた風圧のようなものに圧倒されたことを思い出します。これが私と国際会館との出会いです。今回ご縁をいただき、国立京都国際会館館長というとても重要な仕事をお預かりすることになりました。京都で会

議を開くと参加者が増える、そんな内外の主催者の声を聞くにつれ、期待を裏切らないよう、しっかりとしたサービスを提供できる会議場でなければならないと痛感しています。主催者の方々のご意見や、実際に参加した方のご要望、各界からご参加いただいている理事、評議員の皆さんのお考え、そして何よりもこの仕事を天職として会館の仕事に当たっている職員の思いをしっかりと受け止めていきます。

京都に我が国初となる国立の国際会議場が建設されて半世紀が経ちます。大きな発信力を持つ京都に日本の国際会議の拠点を設け、国際社会に寄与する日本の姿を世界に伝えていこうという国の判断、そして新しい形の京都の発展につ



ニューホール外観

なげたいという地元の強い思いが推進力となって国立京都国際会館が誕生しました。京都というまちがあったからこそこの会館が生まれ、京都にあるからこそ日本を代表する国際会議場であり続けられました。京都のまちの発展のお役に立つ、これは会館の大切な役割です。国際会館を訪れる方々がまちに出かけ、京都の歴史・文化や暮らし、産業に触れていただくためにもっと出来ることはないか考えていると思っています。



里山の四季美により自然とつながる「屏風庭」



ロビーエリアには「拭き漆」仕上げのラウンジチェアセットが設置され、上質なくつろぎ空間が広がる

多様な使い方が可能な ニューホールの開業

今年の10月、ニューホールがオープンしました。早速「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)第15回年次総会」や「日本放射線腫瘍学会第31回学術大会」で使用され、国内外から訪れた多くの参加者達に真新しいニューホールを体感していただける機会となりました。

内外でコンベンション施設の大規模化が進む中、広さの不足ゆえに誘致できない事例が増え、京都でやれば良かったのだが残念というお客様の声も聞こえてきます。こうした中で5,000人規模の施設の増設を訴え、今回ニューホールとしてようやく実現しました。目指したものの半分の規模なのですが、厳しい財政状況の中でよく作っていただけたなと思います。関係する方々の力強いご支援、そして国土交通省、財務省のご英断によるものです。とても感謝しています。内装には京都の伝統工芸の技を随所に施し、京都ならではの上質なホールに仕上がりました。これは京都市のご負担によって可能となりました。

歴史・文化の集積と宝ヶ池の豊かな自然の中に、わが国唯一の本格的国際会議施設を持つ。これが当会館の魅力です。今回、メインホール、アネックスホール、イベントホールそしてニューホールとそれぞれに特色を持つホールを様々な組み合わせる使い勝手の良さも得ました。これらを十分に活かして、国内外からさらに多くの人々を集め、京都の発信力

を高めていくことに貢献したいと思います。また、こうして利用の実績を重ねることで理解を得て、当初目指した規模への拡大をなるべく早い時期に実現していきたいと思っています。



ホール場内

人類の課題を議論し 解決を見出す会議場

1964年の東京オリンピックの成功によって、日本は名実ともに先進国の仲間入りをしました。これを機に先進国としての責任を国際社会の中で果たすための様々な取り組みが行われましたが、1966年の国立京都国際会館の建設もその一環でした。1997年12月にCOP3(気候変動枠組条約第3回締約国会議)がこの京都国際会館で開催され、京都議定書が締結されました。この議定書は、地球温暖化防止を人類共通の課題として明確に打ち出し、この課題に取り組むための具体的な道筋を初めて世界に示したものです。厳しい交渉を終始日本がリードしてとりまとめました。これこそ京都国際会館の建設にあたって先人たちが描いた姿だっ

たと思います。2019年には、文化を次の世代につなぐ取り組みを行っている世界の専門家が一堂に会して第25回国際博物館会議京都大会(ICOM)が開催されます。また、2020年には国連主催の会議としてCOP3と同等の高い格付けを持つ第14回国際連合犯罪防止刑事司法会議(コンGRESS)が開催されます。それぞれの分野で世界のありようを方向付けるこれらの会議が大きな成果を残せるようしっかりと下支えをすること、これが設立以来変わらない当会館の役割です。きちんと役目を果たしていきたいと思います。

近年、医療・科学技術の分野では再生医療や遺伝子組み換えといった未知の領域が広がっています。また、20世紀において先進国の発展を支えてきた基本的な枠組みである資本主義市場経済や民主主義制度の揺らぎが指摘されています。地球環境のみでなく様々な分野で国際社会が共同して取り組まなければならない課題が生じているように思えます。世界中の英知を集め、進むべき方向を見だしていくための会議が一層増えていくのではないのでしょうか。

みやことして千年を超える歴史を持つ京都は、千年分の知恵が蓄積されている世界でも稀な都市です。人類共通の課題を議論する場としてこれほどうってつけの都市はないのではないのでしょうか。より良い方向を見つけ出すために厳しい議論が続く、時には緊迫した場面もある、そんな会議を支える会議場として、施設、環境、サービスに磨きをかけ、「重要な会議は京都国際会館でなくてはならない」こうした評価を確立していくことが目標です。

国際薬理学・臨床薬理学会議 (WCP2018 KYOTO) 市民公開講座



7月1日～6日、WCP2018 KYOTO (第18回国際薬理学・臨床薬理学会議)と、
 第91回日本薬理学会年会、第39回日本臨床薬理学会学術総会が合同開催されました。
 初日には、専門家だけでなく一般の方に「薬理学とは何か?」を伝えようと
 市民講座が企画され、多くの人々がくすりへの見識を深めました。



「薬理学」が果たす2つの役割と くすりの過去、現在、未来から見る 創薬の最前線の現状

池谷 裕二 氏 東京大学 薬学部 教授

皆さんは、薬理学がどんな学問かご存知でしょうか?一言で
 いうと、薬がどうやって効くのかを調べる学問です。そのメカニ
 ズムを知って、次の新しいくすりのヒントを探します。そして薬理
 学にはもうひとつ重要な役割があり、実はくすりの作用を調べ
 ることで私達の身体の仕組みがわかってきたという経緯があり
 ます。つまり、くすりを使って生物を解明するということです。

この2つが薬理学の大きな柱になっています。
 ではこれから、くすりの過去、現在、未来についてお話して
 いきます。くすりは、科学が進歩するずっと前から使われていま
 した。人が使うくすりでも最も古い記録として残っているのは、ア
 ルプスにあるエッツ渓谷で発見された5300年前の男性のミイ

ラ、通称アイスマンが持っていた、抗菌作用があるカンパタケ。
 これが、人類史上最も古いくすりだと言われています。そこから
 時代は流れ、科学者が現れてくすりについて調べるようになり、
 その過程で人体の仕組みがわかってきて、病気に作用するくす
 りを作る製薬企業も出てきました。ただ、くすりを作るのは、月
 面着陸ロケットや原子力発電所を造るより遥かに難しいと言わ
 れています。ロケットや発電所を造ることは物理化学の公式に
 則れば可能ですが、創薬に公式はないからです。複雑かつ困難
 な創薬に挑むため、最近では人工知能(AI)を新薬の開発に活
 用するなど、新しい手法の革新が進み、創薬の未来が形作られ
 ていっています。



試験方法の改良によって どんどん進化していく 「くすりの種」を見つける仕掛け

樽井 直樹 氏 SEEDSUPPLY 代表

人体にはさまざまな機能を持つタンパク質があり、正常に機能
 できなくなった場合に病気になります。創薬のプロセスとして、ま
 ず治療するために効果がある標的タンパク質に作用する化合
 物、すなわち「くすりの種」を、たくさんの化合物の中から選出す
 「化合物スクリーン」によって見つけます。そして、より強く安全に
 作用するよう改良し、動物実験と人での臨床試験を経て、効果や
 安全性が確認されると承認され、くすりとして販売されるようにな
 ります。

製薬企業は各社、自社で集めた化合物ライブラリを持っており、
 大手では100万以上の化合物を所有しています。昔は、化合
 物スクリーンには試験管を使用し莫大なお金と時間がかかってい

ましたが、現在は試験方法の改良で、反応液量を減らし、同じコス
 トでたくさんの試験を行えるマイクロプレートに切り替え、更に膨
 大なデータを処理できるロボットの導入で作業効率が飛躍的に上
 がり、大量のハイスルプットスクリーンを行えるようになりました。

そして私達SEEDSUPPLYも、あらゆる標的タンパク質を対象
 にでき、結合する化合物をライブラリから選別するバインダ・セレ
 クション技術を開発しました。これは今まで試験方法を作れなかつ
 た標的タンパク質も対応可能な新しい技術です。

さまざまな「くすりの種」を見つける仕掛けや最新研究が一緒
 になって、創薬は行われています。この仕掛け作りに私達も貢献
 し、豊かな健康社会を作っていきたいと考えています。



タンパク質から見た創薬 くすりとタンパク質の関係性と 今後の医療の方向性

澤崎 達也 氏 愛媛大学プロテオサイエンスセンター無細胞生命科学部門長

20年近くタンパク質の作り方を研究してきたので、タンパク
 質から見た創薬についてお話しします。

タンパク質とは小さな分子で、生き物を動かすギアやネジの
 ようなものです。これがないと正しく人は動きません。タンパク
 質で一番重要なのは形で、その配列や構造がどうなっているか
 により、タンパク質の機能が決まります。医療は可能な限りタン
 パク質の配列に合わせたくすりを使っていくことが、今後の大事
 な方向性ではないかと考えています。

タンパク質にはさまざまな種類があり、細胞の表面にあるもの
 もあれば、細胞の中や外にあるものもあります。くすりはそれぞ
 れのタンパク質を経由し、最終的に抗炎症や鎮痛といった薬効

となります。本日覚えていただきたいことは、くすりはタンパク
 質に作用して薬効があるということです。現代では、抗がん剤の
 ような非常に強力なくすりも作ることが出来るようになり、一般
 的なウイルスであればアプローチ方法はほぼ理解されてきたの
 で、新しいウイルスと戦える薬剤探索を重ねています。

また、副作用はくすりが想定外のタンパク質に作用すること
 で作られるのではないかと考えられています。愛媛大学では世
 界で唯一、自分達で作成した24000種類のヒトのタンパク質を
 持っており、個々のくすりがどのタンパク質に作用するかを見つ
 ける研究を行っています。それができれば、副作用を低減したく
 すりを作っていけるのではないかと期待しています。

第18回 国際薬理学・臨床薬理学会議
(WCP2018) および市民公開講座

2018年7月1日 — 7月6日



第18回国際薬理学・臨床薬理学会議(WCP2018)が7月1日から6日間の日程で、第91回日本薬理学会年会、第39回日本臨床薬理学会学術総会と合同で開催されました。WCPは1961年から国際薬理学連合(IUPHAR)が4年ごとに開催している、薬理学分野で最も由緒と権威のある国際会議で、日本での開催は37年ぶり2回目です。この会議のメインテーマは「薬理学の未来—科学、薬物開発、新規治療—」で、基礎から臨床および薬物開発に至る薬理学に関する最新の研究成果の発表と情報交換の場が設けられました。7月1日には「くすりの過去、現在、そして未来」、「くすりのタネを見つける仕掛け」、「くすりはタンパク質を狙う」をテーマに市民講座が開催され、市民の皆様に分かりやすく解説していただきました。

市民公開講座の特集は P.3

第5回 国際組織工学・再生医療学会
世界会議2018—京都

2018年9月4日 — 9月7日



日本初の再生医療分野の世界会議である第5回国際組織工学・再生医療学会世界会議が、9月4日から4日間の日程で開催されました。国際組織工学・再生医療学会(TERMIS—WC)と日本再生医療学会(JSRM)の共同開催で、組織工学・再生医療の研究者や医師、企業関係者、世界53ヶ所約2,300人が参加。組織工学、幹細胞生物学、細胞移植治療、再生医療、再生医療の産業化などをテーマに7つの基調講演と86のシンポジウム、1,800のポスター発表などが行われました。再生医療は、さまざまな学術分野の寄与や大学、企業、行政の有機的な協力が不可欠な学際的研究領域であり、世界各国から集まった研究者や医師、企業関係者らは「産官学の専門的インテグレーションの促進」を目指して、活発で意欲的な論議や人的交流を深めました。

ニューホール竣工記念式典

2018年9月19日



ニューホールの竣工記念式典が政治・行政、経済、学術、文化など地元、中央からの各界関係者約300人が出席して、盛大に開かれました。

記念式典は、京都市立芸術大学卒業生による弦楽四重奏の演奏で開会。村田純一国立京都国際会館代表理事が「京都の長年の悲願である新ホールの竣工を皆様と一緒に迎えられたのは大きな喜び。京都から世界へさらに情報発信力を強めていきたい」と主催者を代表してあいさつしました。

来賓の伊吹文明衆議院議員からは、「当初計画の半分の規模であり、めでたさも半分くらい。5,000人規模への拡充を目指して頑張りたい」とのご挨拶があり、また、門川大作京都市長は「偉大な歴史を刻んできた国内初の国際会議場に新ホールができ、感謝の気持ちでいっぱい」と祝辞を述べました。

ICCK自主企画 乾杯の夕べ2018 〜ボンジュール・フランス!〜

2018年7月20日—7月21日



真夏恒例の自主企画イベント「乾杯の夕べ2018」が7月20日から開催され、2日間で延べ約3,800人の市民らでにぎわいました。22回目の今年は京都・パリ友情盟約締結60周年を記念して「フランス」をテーマに設定。フランス料理屋台や雑貨、ワインなどのプチマルシェが並び、水上ステージではフランス音楽のライブ演奏があり、館内では留学生によるフランスのお話し会などがにぎやかに開催されました。終盤には、人気の抽選会で会場の盛り上がりが高潮に達する中、打ち上げ花火がイベントのフィナーレを飾りました。

国立京都国際会館に
白鳥寄贈

山口県宇部市のときわ動物園で飼育されていた白鳥2羽が下関響灘ライオンズクラブより寄贈され、8月21日に贈呈式が行われました。オス、メスのつがいのコブハクチョウで、国立京都国際会館の新たなマスコットとして訪れたお客様をお迎えします。



NEW HALL INFORMATION vol.9

京都らしい設え



ホワイエ

京都国際会館ではこのほどオープンしたニューホールに、地元自治体である京都市と連携し、京都の伝統産業や伝統工芸等の技法を生かした、家具・調度品等を制作、設置しています。多目的利用が可能なニューホールにふさわしい、建物と調和したこの「京都らしい設え」は、心地よい上質な和の雰囲気を醸し出しています。ニューホールをご利用の際は、京都に息づく伝統産業品の数々を間近にご覧いただけます。

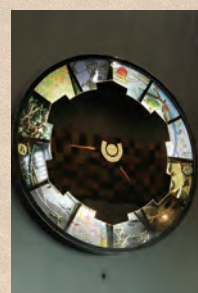
今回は、ニューホールにお越しになられた皆様をお迎えする、ホワイエの家具・調度品等をご紹介します。



「拭き漆」仕上げのラウンジチェア



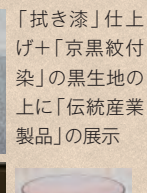
「京焼・清水焼」の陶板レリーフ



パネルに西陣織等15の伝統工芸の技法を用いた時計



伝統模様(源氏香文)を彫り込んだ「アルミ加工板」のアートパネル



「拭き漆」仕上げ+「京黒紋付染」の黒生地の上に「伝統産業製品」の展示



「京焼」の衝突防止マーク



「拭き漆」仕上げの受付カウンター



「創作和紙」を用いた光屏風



「京焼」天板のハイテーブル

PICK UP ピックアップイベント

第15回 地球観測に関する政府間会合本会合
及び関連会議等(GEO Week 2018)

2018年10月29日 — 11月2日

GEO Week 2018が開催され、第15回地球観測に関する政府間会合(GEO*)本会合が行われます。GEO本会合は、参加国や参加機関等の関係者約600名が参加する総会であり、初めての日本開催です。

地域ごとの活動やGEOが優先連携3分野として掲げる(1)持続可能な開発のための2030アジェンダ(SDGs)(2)パリ協定(3)仙台防災枠組2015-2030に焦点をあて、地球観測データの更なる活用について議論を行います。

※GEO: Group on Earth Observations

第34回 京都賞 授賞式・記念講演会

2018年11月10日 — 11月11日

稲盛財団(稲盛和夫理事長)の「京都賞ウィーク」が11月9日から16日にかけて開かれます。本館では10日に授賞式、11日に記念講演会が行われます。授賞式では、今年の受賞者であるカール・ダイセロス博士(神経科学者/米国)、柏原正樹博士(数学者/日本)、ジョーン・ジョナス氏(美術家/米国)の3名に、京都賞メダルとディプロマ(賞状)、賞金1億円が贈られます。記念講演会は一般公開です。

催事名	Pick up ...ピックアップイベント (p.6参照)	日程
Pick up	第15回 地球観測に関する政府間会合本会合及び関連会議等 (GEO Week 2018)	2018年 10月 29日 - 11月 2日
	TED x Kyoto	11月 4日
	2018年 アジア・パシフィックマイクロ波会議	11月 6日 - 9日
Pick up	第34回京都賞授賞式・記念講演会	11月 10日 - 11日
	第50回国際小児がん学会 (SIOP2018)	11月 16日 - 19日
	日本精神分析学会第64回大会	11月 23日 - 25日
	Nintendo Live 2018	11月 23日 - 24日
	第3回国際シンポジウム「コメとグローバルヘルス」～コメとコメ糠の科学とファイトケミカルス～	11月 29日 - 30日
	精華学藝祭 京都精華大学・木野会50周年記念展	11月 30日 - 12月 2日
	京都橘大学 看護国際フォーラム	12月 1日
	第66回 (平成30年秋) 宝松庵茶会	12月 2日
	第14回認知症ケア専門士認定試験2次試験	12月 2日
	第57回日本網膜硝子体学会総会	12月 7日 - 9日
	ATACカンファレンス 2018 京都	12月 14日 - 16日
	平成30年度 心の健康・文化フォーラム	12月 16日
	公益社団法人 日本青年会議所2019年度京都会議	2019年 1月 17日 - 20日

地域をぐるっと

味わ
探訪

小さいけれど、
ピリリと辛い
鷹峯に伝わる
通好みの薬味

品種改良や栽培方法の研究が進み、より甘みの強い野菜がもてはやされる昨今。そんななか、300年以上からの伝統の辛みを守ってきた野菜が、その名もズバリ、「辛味だいこん」です。

直径3〜5センチと小さく、かぶらのような外見ながら、その味はどんな大根よりもピリリと辛い。引き締まった肉質のためおろしにしても水分が出ず、ふわりとした舌触りが独特です。ワサビとはまた違った風味が食欲をそそり、古くから蕎麦やてんぷらの薬味として食通の舌を楽しませてきました。

もともとは龍安寺や仁和寺に近い原谷地域が発祥とされ、300年ほど前から洛北の鷹峯が主産地に。今は「京の伝統野菜」の一つとして、貴重な味覚を守り伝えていきます。

源光庵

市バス「鷹峯源光庵前」下車、徒歩約1分

京都市街の北西、鷹峯三山（鷹ヶ峰・鷲ヶ峰・天ヶ峰）の麓に位置する鷹峯地域。源光庵は、この地に室町時代初頭に創建されたと伝わる古刹です。本堂の丸い「悟りの窓」と四角い「迷いの窓」で知られ、窓越しに眺める紅葉は京都を代表する秋景の一つ。



辛味だいこん



表紙：写真はニューホールのホワイエ（ロビー）。周囲を秋の襲（かさね）の色目「樺」をイメージした、朽葉に黄の「菱文様」で彩りました。